

長良川中流域における防災船着場詳細設計

玉野総合コンサルタント株式会社 流域技術部 岡田 尚美 他

○キーワード

防災船着場、耐震性能照査、動的解析、FLIP

○概要

防災船着場は、大地震等の災害時に、水上輸送による資機材や物資の輸送と荷役、人員の輸送を行うことを目的とした施設である。

当該防災船着場は、長良川中流域に位置し、木曾三川の防災船着場全体計画における最上流端に位置する。船着場位置や計画断面等の基本事項は、緊急用河川敷道路へのアクセスや船舶の安全な航行・接岸および荷役の作業性等を考慮して決定した。そのうえで、レベル1地震動に対する安定検討を実施し、岸壁構造として「控え式矢板構造（控え：既設矢板）」を選定した。さらに、大地震後にも利用可能な施設とするため、レベル2地震動による耐震性能照査を実施し、大地震後にも利用可能であることを確認した。

○技術ポイント

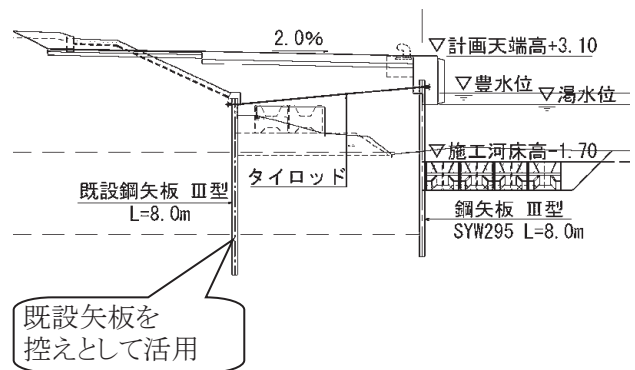
河川における防災船着場は事例が少なく、河川の基準類に船着場の規定はほとんどないため、部分的に港湾の基準も準用しつつ、性能設計として個別に判断して設計を行った。

- ① 船着場位置の検討
- ② 計画断面・平面配置の検討
- ③ 船着場岸壁構造の検討（レベル1地震動）
- ④ 船着場の耐震性能照査（レベル2地震動）

○図・表・写真等



既設矢板調査（肉厚測定）



船着場岸壁構造